

終戦

渥美半島

の戦争遺跡を語る

うえて忘れてはならないのは、遠藤中佐の慰霊碑と渥美線機銃掃射被害跡地です。

田原市に残る戦争の傷跡

遠藤中佐と西尾少尉の慰霊碑(神戸町)は、遠藤海軍大尉(のちに中佐)の乗る「月光」が墜落した場所に建てられたものです。この碑には、自らの命に代えて、民家の密集地への墜落を回避したことに対する感謝の気持ちが込められています。



◆遠藤中佐と西尾少尉の慰霊碑

「月光」も被弾し墜落しました。炎上する「月光」を渥美半島上空まで操縦し、同乗していた西尾上飛曹(のちに少尉)を脱出させますが落下。死の直前まで、民家への墜落を避ける努力をしたと見られ、自らも脱出しますが落下し、二人とも戦死しました。

大東亜戦争動員学徒殉職之地碑

(神戸町)は、昭和20年(1945)、渥美線が米軍の戦闘機に機銃掃射を受けた場所の近くに建てられています。電車には一般人や軍需工場に通勤する学徒、兵がたくさん乗っており、15人の即死者と16人の負傷者を出したという悲惨な出来事がありました。



◆渥美線機銃掃射被害跡地付近に建つ慰霊碑

今でも思い出す 渥美線が銃撃された日…



林 和彦さん (田原町)

渥美線が米軍の戦闘機P51に銃撃された日。それは、終戦前日の、昭和20年8月14日のことでした。14歳の私は、そのとき防空監視哨に勤務していた。確か出勤の日だったと思います。防空監視哨は、当時の警察署(田原町新町)の上に建てられた3階建ての建物で、1階が就寝室、2階が電話室、3階が立哨台でした。私たちの仕事は敵の飛行機を発見し、向かう方向と機種を、名古屋へ電話連絡することでした。

いつものように、私は敵機が来ないか監視をしていました。渥美線は、空襲警報が出ていると発車をひかえます。空襲警報が解除され、昼過ぎに豊橋行きが発車したときのことです。蔵王山の向こうから、吉胡の上空を抜け、米軍の戦闘機2機がヒュッと現れました。そして、田んぼの中を走る1両編成の渥美線を見つけたのです。渥美線は、戦闘機に気付き、豊島の森かげに入り停車しましたが、もう見つかったのですから、逃げることはできませんでした。2機の戦闘機が、渥美線の真後ろから、超低空でババババツと機銃掃射をしました。そして、今度は向きを変え、真横からもう一度、銃弾をあげたのです。

※田原町史には3機の戦闘機と記載。林さんが見たのは2機